

日時：2025年7月29日(火) 17:30-18:30

場所：WEB (TEAMS) 開催

進行：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 当番幹事 コロプラスト株式会社

議事：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 副当番幹事 アルケア株式会社

参加：JSSCR-板橋道朗、山本由利子、靱山こずえ、幸田圭史

JWOCM-紺家千津子、加瀬昌子

JOA-坂本純、猪口義武、木下静男

OAS-内藤寿真子、ヴィヴィアンフェイ（進行）、伊藤琢磨、福元真一（議事） 合計 13名

1. 活動報告

1) JSSCRより

板橋

- 在宅オストメイト支援の重要性が増すことを想定し、訪問看護ステーションのスタッフに向けた講習会の実態を調査し、学会からの支援の働きかけを検討するためのワーキンググループを山本さん中心に設立し活動し始めた。近々アンケートが各地の講習会に連絡がいく予定である。

山本

- ワーキンググループについては、講習会委員会で介護者向けのストーマ講習会の学習目標の利用状況を把握し、これより推進していく。
- オストミー協会香川県支部を8月1日目標に設立する。横浜市支部などから情報を頂き、9月中に助成金の陳情を上げる活動を行っている。ご助言のほどよろしくお願いします。

靱山

- 医療機器販売業協会の各支部は各都道府県と災害時の協定を結んでいるが、その協定の中にストーマ装具が品目として入っているかを、災害対策委員会 都道府県代表より調査してもらっており、回答が集まってきている。
- 今回調査を行ったことで、これまで行政とのやり取りをしてこなかったエリアで、改めて会議を持つなどをして、ストーマ装具を品目に入れるよう申し入れをしているエリアもある。この活動が徐々に広がっていけば、ストーマ装具が都道府県の支援物資として認められ、災害が発生した際には該当販売店から支援物資として提供され、代金も補償される事になる。現状はOASが持ち出しで支援を行っているがその代わりに災害備蓄を早期に行うのは困難であること、また支援物資を運ぶ際にもこの協定が役立つ事もあり、推進していきたい。
- 都道府県においてどこの部署が管轄しているかにより大きな違いがあったり、ストーマ装具の販売を行っている医療機器販売店が代表になっていると話が進みやすいが、地域によってそうでないケースがありその場合は難しいなど、様々なケースがある。今回の調査結果をまとめて、追って情報共有する。

内藤

- 災害対策委員の方々の動きにより、お問い合わせを頂く事が増えてきている。医療機器販売業協会は医療機器の販売店で、ストーマ装具は医療機器でないため対象でないという声を聞くことがあったが、今回靱山さんから対象としている地域がある旨の情報を頂けた事はありがたい。

靱山

- 病院の先生からアプローチをして頂き、ストーマ装具が大切だと言って頂けると、品目に入りやすい感覚がある。また、都道府県の方で品目の中にストーマ装具を入れると決定している地域と、品目については医療機器販売業協会に任されていて同協会の方でストーマ装具を入れるというケースもあった。まとまり次第共有する。
- ストーマ手帳に関しても年内に完成する方向で進んでおり、出来上がり次第報告する。

2) JWOCMより

紺家

- 本年7月から第8期の理事長になった埼玉県立大学 渡邊千登世先生と交代となる。
- JWOCMとしては災害に対し物ではなく人材派遣による支援を行いたく災害支援ナースを進めていきたいと考えており、6月20～21日に山形で行われた学会で会員に呼びかけを行った。災害支援ナースになるためには、各都道府県の看護協会にて研修会を受講する必要がある。
- 地域包括ケアにおける連携の課題解決のため、アドホック委員会を立ち上げている。地域支援策の一つとして、リタイアされる時期になってきた皮膚排泄ケア認定看護師の方々をプラチナナースという形で地域の支援に動けるように進めている。
- 今後本会には、JWOCM側から、理事長：渡邊千登世と渉外委員長：加瀬昌子が参加する。

3) JOAより

木下

- 6月15日の全国大会で会長職を退任した。今後は、会長は坂本純、副会長は猪口義武・山本悦秀の三名で担当していく。
- 6月14～15日に札幌市教育文化会館において、第37回JOA全国大会を開催した。内閣府・厚労省・北海道・札幌市・北海道難病連・JSSCR・JWOCMの後援を頂き開催することができた。御礼申し上げます。当日は県知事・市長の代理の方より挨拶を頂き、JSSCR板橋理事長より祝電、JWOCMより貝谷庶務担当理事の出席を頂き学会からお花を頂戴した。また顧問医会から代表として進藤先生に参加頂きお言葉を頂いた。市民公開講座として元旭山動物園 園長の小菅正雄氏より講演を頂いた。

4) OASより

ヴィヴィアン

- 前回3月の会議で報告が間に合わなかった2月の岩手での災害については、3名の方に無償提供を行った。3月以降は3件の災害救助法が適用となったが、うち2件については提供なし。残り1件は現在適用となっている沖縄県の件であり、販売店に確認を行っている。

内藤

- 現在、様々なエリアで災害を取り上げて頂けることが増えている。6月14日の関西STOMA研究会では災害がテーマとなりOASへの展示依頼があり、災害時対応の手引きを展示・配布する対応を行った。また北海道ストーマリハビリテーション研究会の災害対策委員会より札幌市において災害対策合同会議が行うご連絡を頂いている。愛媛ストーマ・排泄リハビリテーション研究会においてもワークショップがあり、コロプラスト社よりOASの活動について紹介を行った。

次回開催：第61回日本ストーマ連絡協議会
2025年11月18日(火)17時30分～ 開催

以上